（別紙4）　　令和　5　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4271401830		
法人名	有限会社　エス・ワイ・シー		
事業所名	グループホーム　クベレ		
所在地	長崎県雲仙市小浜町金浜422-2		
自己評価作成日	令和5年8月8日	評価結果市町村受理日	令和5年10月3日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人　ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	令和5年9月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

当ホームは国道に面した場所にあり、大きなガラス窓から橘湾を一望できる開放感のある施設です。冬の駅伝シーズンには、ホーム前の国道を走る選手を応援することもできます。
ゆったり穏やかに、その人らしい生活が送れるよう家庭的な雰囲気作りを心掛けております。
コロナウイルスの影響で自粛していた外部との交流も徐々に再開し、先日も近くの保育園の行事に参加しました。
他にも毎日施設内で体操を行い体力維持に努めたり、季節の塗り絵や壁紙作り、風船バレーや歌などレクリエーションにも力を入れております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

リビングは国道に面し、橘湾を一望できるロケーションで、リビング窓を二重サッシすることで断熱や防音に配慮した住環境となっている。毎月、職員と入居者が一緒にタペストリーを手作りして壁に飾り、季節感のある共有空間ができている。24時間換気システムが稼働し、職員による清掃で清潔な空間である。共用認知症対応型通所介護を併設しており、日常的に地域住民と交流できるようテラスを増設し、入居者が屋外で景色を眺め、歌を唄ったりお茶を飲みながら談話するなど入居者の気分転換を図っている。地域住民や職員からは地元で採れた野菜などの差し入れがあり、地元の食材を利用したバランスの良い手作りの料理が提供されている。102歳の入居者がこぼうのささがきを行ったり干し柿づくりを手伝うなどのほか、季節の塗り絵や壁紙作り、風船バレーや歌などレクリエーションにも力を入れ、本人の残存能力を活かした支援に取り組んでいるホームである。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
		○	2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
		○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

ユニット名

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・職員で考えた理念を掲示し、日々の介助を行っている。 ・毎朝のミーティング時に「職場の教養」という冊子を読み、介護する時の気持ちを常に初心に戻すように気を付けている。	理念「私たちは、利用者様本位の介護サービスを提供します」、「私たちは、日々自己研鑽し、サービスの質の向上に努めます」、「私たちは、心豊かな介護を通し、地域福祉に貢献します」とリビングに掲げて毎朝復唱している。法人は倫理法人会に加入し、朝礼用の小冊子「職場の教養」を活用して職場の活性化に向けて取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・自治会に入り、自治会の清掃活動や地域の祭りなどに参加している。 ・近くの保育園の行事に参加するなど交流を深めている。	ホームは野中自治会に加入し、地域清掃や祭りなどの催しに参加している。近隣の飛子保育園の運動会に見学に出掛けたり、今年は七夕祭りに参加するなど地域との交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・個別に相談があった時には声掛けの仕方や介助、介護の仕方など話をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・二か月に一回開催している。 ・入居者様の状況、行事などを説明し、意見を聞いている。 ・包括支援センター職員一名、地域の民生委員一名、家族代表一名(基本、持ち回りとしている)の三名に参加して頂いている。	2か月毎にホームの事務室にて運営推進会議を開催し、ホーム長、管理者、雲仙市包括支援センター職員、入居者代表、民生委員、介護支援専門員が参加している。入居者の状態や支援の状況のほか、ホーム行事、職員研修、ヒヤリハット・事故報告等、ホームの取り組み状況を伝え、職員の意見をサービスの向上に活かしている。	ホームの取組み状況を知りたいという家族の意向を踏まえ、運営推進会議に参加していない家族にも運営推進会議録を送付し、ホームの情報を伝えるよう今後の取り組みに期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・運営推進会議に、包括支援センターの職員に委員として参加して頂いているので、その時に情報を交換したりアドバイスを頂いている。 ・何かあった時には包括の職員に電話相談したりしている。	雲仙市グループホーム連絡協議会に加入し、各種研修や情報交換などを行い、最新情報を入手するようにしている。運営推進会議に地域包括支援センター職員と意見交換し、ホームの状況や支援の取り組みについて積極的に相談し、助言を得るなど協力関係を築いている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束しない」を基本としている。 ・職員間やスタッフ会議で話し合いをする事で利用者様個人の状態を把握し、身体拘束のないより良いケアを心掛けている。 ・玄関の施錠に関しては、防犯などの問題もあり施錠している。	「身体拘束ゼロへの手引き」、「身体的拘束廃止に関する指針」を整備し、「身体拘束しない」を基本として取り組んでいる。本年7月28日には「権利擁護研修」に管理者が参加した後、職員に対し伝達研修を行い、周知を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	・利用者様に対する介助の方法や接し方を職員間で話し合い、虐待がないよう介護の見直し、統一を図っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・その都度本人様に声掛けを行い、利用者様本位の介護サービスを心掛けている。 ・研修案内があれば受講するようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・その都度説明し、同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・運営推進会議や家族の面会時に意見・要望を聞いている。意見はスタッフ会議などで話し合い統一する事で、より良い介護サービスを提供出来るようにしている。	コロナ禍の影響により県外在住の家族の面会は制限していたが、現在は緩和している。面会や電話連絡時などを通じて家族から要望等を聞き、必要に応じて特記事項として業務日誌に残し、職員と共有している。帰宅願望がある入居者には否定せず理由を聞いたり気晴らしにドライブに行くなど工夫している。	

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者会議やスタッフ会議を毎月開催し意見交換している	法人全体の管理者会議にホームの管理者が出席し、管理者から職員へ話し合われた内容や運営等について伝達している。スタッフ会議ではケアサービス等について提案や意見交換している。管理者は職員へ現状確認や働き方の意向を聞き取り、資格取得取得希望者には研修費用の半額を補助するなどバックアップ体制を整えている。	介護職員の処遇改善や職場環境の改善に向けた取り組みとしてハラスメント防止のため必要な措置を講ずることが求められており、円滑に職員意見を反映させられるよう、ハラスメントに関する研修などを通して理解を深めると共に、基本方針、マニュアル作成、相談対応窓口の設置等、今後具体的に取り組むことを期待する。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者会議やスタッフ会議等で意見や要望を出し合い、環境整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナため外に研修に行くことは あまりなったが、パソコンの動画を観ながらしていた。最近は、法人内研修や資格取得の研修にも参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者は、島原半島や雲仙市のｸﾞﾙｰﾌﾟﾎｰﾑ連絡協議会の役員をしている。オンライン研修等に参加している		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前に本人や家族に聞いている。また前の施設からの情報をもとに聞くこともある。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前に本人や家族に聞いている。また前の施設からの情報をもとに聞くこともある。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状態や家族の要望等で必要かどうか他の職員と話し合い対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の生活習慣を尊重し、少しでも早くホームでの生活に馴染まれるよう話を聞きながら、声かけ・誘導をしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何かあればすぐに家族に連絡し、家族の要望も聞きながら、対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で面会は控えてもらってたが、最近は制限はあるが、対面で会えるようにしている。また元住んでいた所の近くをドライブに行ったりしている。	入居時にフェイスシートに記入し、生活習慣や馴染みの関係を把握している。趣味や趣向を把握し、詩を吟じる方や、カラオケが好きな方、色紙を折って飾る方など、入居者の希望を実現している。玄関やテラスで入居者家族や知人と面会したり、ゆっくりと会話をしながらお茶を飲んでもらうなど支援している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家事（洗濯物たたみやテーブル・お盆拭き）など出来られることを手伝って頂いている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も家族や次の施設に状況聞いたりしている。退所後まもなく亡くなられた時はお悔やみに行くこともある。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の様子や会話の中から本人の希望、意向を把握している。家族にも聞いている。	職員は入居者の発した言葉を必要に応じて介護日誌に記録を残し、介護計画の作成に活かすなど入居者が希望する暮らし方に繋げている。意思表示が困難な方には筆談したり、いくつかの質問に頷きや表情で把握するなどし、家族にも意向を聞いて本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族から聞いたり、前の施設からの情報等で把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の意向を尊重しながら、できるだけ自分で出来ることは自分でされるよう誘導している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族に現状を話し、本人・家族の意向や意見を聞いている。介護職員と話し合って、より良いアプランを考えている。	毎月開催するスタッフ会議で入居者や家族の希望や意向、職員の提案等を踏まえて、具体的な目標設定、介護計画の立案を行っている。入居時は暫定的な介護計画を作成し、本人の状態や実践状況を確認しながら、介護計画に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝のミーティングや月1回のスタッフ会議で出た気づきや入居者の状況変化など業務日誌や会議議事録に記載している。ケアプランの見直しに役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問ヘアーカットや訪問歯科を利用している。寝たきりの方にリクライニングチェアーを購入。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナが少し落ち着てきたので、保育園との交流が再開。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望を尊重している。 主治医とは良好な関係が築けていて、何かあればすぐ相談できる	ホームの協力医がかかりつけ医とする入居者が多いが、入居前のかかりつけ医を継続している方も2名いる。ホームには定期的に協力医及び協力歯科医の訪問診療があり、病状確認や健康管理など、医療面での支援に繋げている。受診は家族による同行を基本としているが、状況に応じて職員が受診に同行し、主治医の指示を受け、家族に報告している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回看護師が入居者の健康チェックに来るので、その時日頃の状況を報告している。月1回のスタッフ会議にて現況の共有と指導を受けている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	コロナで見舞いに行けなかったが、家族や病院の連携室に連絡を取り、状態把握している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に見取りについて当ホームの方針を説明している。終末期における事前確認書を取り本人・家族の意向を聞いている。その意向は主治医にも伝えている。	入居時に「終末期医療に関する事前確認書」を用いてホームの看取りの方針を家族へ説明し同意を得ている。看取りに関する指針を整備して全職員が日頃より重度化した場合や終末期に備えている。看取り後は入居者の身体を清潔にし、身だしなみを整えるなどエンゼルケアを行い、入居者・家族の意向を大切にした看取り支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルを作成し、職員に配布・説明している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	年に2回避難訓練をしている（内 1回は消防署指導あり）。 台風などの予測のできる自然災害時は千々石の事業所に避難をしている	前年度は4月25日、10月31日、今年度は5月29日に夜間帯の火災を想定した避難訓練を実施している。令和2年9月の台風10号接近時には同法人関連事業所へ実際に避難を行った。ホームの台所・事務所・倉庫に非常食など3日分程度の備蓄品を保管し、賞味期限を管理している。緊急時の入居者持ち出しリストをリュックサックに入れて準備している。	昨今の自然災害を踏まえ、あらためて土砂崩れ・台風・豪雨発生対応マニュアルや台風時・停電対応のマニュアルを確認し、必要な見直しや机上を含む避難訓練を行うなど、BCP策定と合わせて今後の取り組みに期待する。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・利用者様には常に敬語で対応し、上から目線の言葉づかいや命令口調は絶対に行わない。 スタッフ会議で話し合うこともある。	職員は入居者と常に敬語で対応し、穏やかな口調で会話するよう心掛けている。勤務経験が永い職員が多く、入居者と馴れ合いにならないよう互いに注意し合ったり接遇研修に参加して研修報告会を行うなど入居者を尊重したケアに努めている。入居時にホームだより等に掲載する本人の写真について家族より同意を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・本人に直接話を聞いたり日常生活の会話の中から聞いている。 ・日常生活で本人が出来る部分はしてもらい、出来ない部分をサポートしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・平均年齢が93歳と高く、介護度が高い方も多いため、各々のその日の体調に合わせて食事や入浴・アクティビティなどを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・季節に合わせた服装を心掛けている。また、本人に聞き、希望に添えるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	・野菜の下ごしらえ、おしぼり巻き、食器洗いなど、出来るものをそれぞれ手分けして手伝ってもらっている。	地域住民や職員から地元で採れた野菜などの差し入れがあり、地元の食材を利用したバランスの良い手作りの料理を提供している。本人の嗜好を考慮し、刺身や紅白饅頭、ケーキなど食事を愉しんでもらえるよう支援している。102歳の入居者がこぼうのささがきを行ったり干し柿づくりを手伝うなど本人の残存能力を活かした支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・野菜を中心としたバラエティーに富んだ献立を心掛けている。 ・個人に合わせた食事の量や水分量、食材の大きさなどを工夫している。 ・歯がない方、飲み込みが悪い方にはミキサーにかけたり刻んだりし、水分にはとろみをつけて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後口腔ケアの声掛け、誘導を行い、ブラッシングの介助を行っている。 ・訪問歯科に来て頂き、診察や指導を受けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・トイレでの排泄を基本として、時間を決めて声かけや誘導を行っている。また、必要に応じて紙おむつや紙パンツ、パットを使用している。 ・夜間は本人の希望でポータブルトイレを使用されている方もいる。	「排泄チェックシート」に記録している。入居者一人ひとりの排泄パターンを把握し、本人の訴えや排泄間隔に合わせて声掛けし、トイレでの排泄誘導を行っている。日中、夜間とパッドやオムツの大きさを考慮し、家族の経済的負担に配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・野菜多めの献立を作り多く摂って頂き、また一日一回ヨーグルトを食べて頂くようにしている。 ・水分を多めに摂って頂くようにしており、必要に応じて薬を処方して頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	・入浴する日を決めて定期的に入浴して頂いている。 ・その日の体調や本人の意向を聞き、変更する場合もある。	週2回午前中の入浴を基本としているが、本人が希望した場合は当日に入浴することもできる。同性介助を希望する場合は対応することができる。可能な限り浴槽に入ってもらい、重度の方にはシャワーチェアにてシャワー浴や足浴や清拭などに変更するなど本人の体調や生活リズムに応じて適宜対応している。菖蒲湯やゆず湯など入浴を楽しめる工夫を行っている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・消灯は21時だが、それぞれ自分の好きな時間に休まれている。 ・夜間眠れない時はリビングで話をしたり、お茶を飲んで頂き眠くなったら休んで頂いている。 ・シーツ交換、寝具の調整、居室の温度・湿度管理をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・入居者の服薬情報を作成しており、服薬時には必ず職員二人以上で確認するなどマニュアルに沿って服薬介助を行っている。 ・何の薬か尋ねられたら説明し、納得した上で服薬して頂いている。 ・気になることは医師に相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・洗濯物たたみやテーブル拭き、お盆拭きなど出来ることを毎日手伝って頂いている。 ・好きなものや食べたいものを聞いて提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・一緒に買い物に行ったり、本人の意向に出来る限り沿うようにしている。 ・家族と出掛ける際も支援している。	好天時にはドライブをして向日葵を見に行ったり、家族と協力し、墓参りや病院を受診した帰りに食事をして帰るなど、コロナ禍の状況を考慮しながら可能な範囲で外出を支援している。ホームにテラスがあり、日光浴をしたりお茶を飲みながら談話するなど入居者の気分転換を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・本人、家族の意向に任せている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・本人が電話を掛けたいと言って来られた場合はいつでも掛けて取り次ぎ、家族から電話があった場合もいつでも取り次いでいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・リビング、台所、廊下には仕切りがなく開放感のある、よく見渡せる造りになっている。 ・国道に面しているが窓を閉めていると音はさほど気にならない。 ・季節に合わせた飾りつけをしている。	リビングは国道に面し、橘湾を一望できるロケーションで、リビング窓を二重サッシすることで断熱や防音に配慮した住環境となっている。毎月、職員と入居者が一緒にタペストリーを手作りして壁に飾り、季節感のある共有空間ができている。ホーム内は明るく広々とした空間で、24時間換気システムと、職員による清掃で清潔保持に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・それぞれ自分の好きな所に座って過ごされている。 ・リビングにはテーブルが4台あり、新聞を読まれたりする際は明るい場所を使って頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・本人、家族の意向に合わせ、本人の動きに合わせてベッドを配置し、収納等出来る方はご自分でして頂いている。 ・日当たりの強い部屋は遮光カーテンを設置し、居心地よくしている。	居室には置時計や引き出し付ボックス、色鉛筆などの趣味の道具など本人の馴染みのものは自由に持ち込むことができる。以前は仏壇を持ち込む方もいた。入居者が生活していた居室の状況を把握し、可能な限り再現し、入居後も穏やかに過ごせるよう取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・必要に応じて手すりを増設したり、安全に自立して出来るようにしている。		